

庁議の概要

開催日 平成 20 年 1 月 4 日 (金)

◎項 目

- 1 副知事からの就任あいさつ
- 2 知事からの年頭のあいさつ
- 3 その他

◎内 容

1 副知事からの就任あいさつ

【副知事】

- ・ 尾崎県政がスタートして、まだ一ヶ月経過していないが、知事はトップスピードで駆け抜けている。新しい年を迎えて、尾崎県政にとって、重要な予算編成作業が始まるが、対話と実行ということを目指す尾崎県政がどんなスタートを切るかというのは、ひとえに予算編成の内容にかかわってくると思うので、各部署局長の協力をお願いしたい。また、県経済を活性化するため、今までと同様の考え方でなく、何かちょっと違った観点、新たな発想で見つめてみるといったことをぜひ予算編成でお願いしたいと思う。

2 知事からの年頭のあいさつ

【知事】

- ・ 年頭所感でも申し上げたが、この 1 年を県政浮揚に向けた足固めの年にしたい。具体的には、この 1 年をかけて、産業振興のための新たな計画の策定に着手をしたいと考えている。また、医療に関しても地域別の対応についてどのようなことができるのか、そういう計画づくりも行っていきたいと考えているところである。じっくりと県政浮揚に向けて、どのような対応をしていくべきなのかということを考えていく年であろうかと思う。
- ・ そのような 1 年の年頭にあたり、4 点申し上げたい。まず第 1 に、経済の活性化はあくまで民間主導のもとで達成されるものであり、行政の役割というのは、その後押しであると思う。したがって大切なことは、今高知県の中において、民間でどういった取り組みが行われているかということをしっかり把握することではないかと思う。そして、その上で県行政としては何ができるのか、それをさらに伸ばしていくためには、一体どのようなことができるのかということを考えていかなければならないと思っている。こういう点からも必要なことは、官民協働の県政、県民との対話をしっかりと進めてその取り組みを把握し、それについて何ができるのかをお互いしっかり話し合う対話の県政ではないかと思う。
- ・ 2 点目としては、高知県は、海の地域もあれば山の地域もある。さらに、都市部もあれば、いわゆる限界集落と呼ばれる非常に厳しい状況におかれた過疎地域もあり、非常に多様性に富んだ県土である。経済の振興というと、勝ち組の振興というふうにとられがちではあるが、高知県のように非常に厳しい中山間地域などを抱える今の状況において、ひとえに勝ち組を伸ばすというだけでは決して駄目であって、むしろ大切なことは、地域、地域において、いかに生業を得、雇用収入を永続的に確保することができるのかといったことを考えることではないかと思っている。経済の振興を図るにあたっては、地域ごとの振興を図っていくためにはどうすればいいかという視点も忘れてはいけない。また、こういう点において大切なことは、市町村ともしっかりと連携を図っていくことである。

- 3点目は、現在、原油価格1バーレル100ドルを超えるという状況に至っている。もしかすると今年は、日本経済全体も転換点となってくるかもしれない。本県は極めて厳しい状況にあるが、さらにその本県を取り巻く日本全体の状況が厳しいことになってくるかもしれない。グローバル競争の時代と言われているが、わが高知県の経済、各人もこの厳しい競争にさらされている中、日本全体の経済状況が厳しくなれば、その厳しさはますます増してくるということになると思う。そういう中で大切なことは、高知県に閉じこもった発想ではなくて、全国区の視点を持つということではないかと思う。高知県において、今まではこういうことをやってきたのだというだけでは明らかに不十分である。他県もいろいろな努力をしている。その他県との競争に県経済はさらされている。もっと言えば外国との競争にもさらされている。県庁、特に幹部職員において、他県の取り組みに対して高知県の優位性を発揮するために、高知独自ではどのようなことをやるべきなのかという視点を常に忘れず、その上で高知県の良さを、他県にも負けないやり方をもってアピールするためにはどうすればいいか。そういう視点を常に忘れないでもらいたい。組織の改革として、東京事務所の抜本拡充を挙げているが、それも究極的には、そのような視点をこの高知県において導入するために必要だと思うからである。
- 4点目は、国において、政策のつくり方自体が大きな変化を今、私は迎えているのではないかと考えている。昨年、総務事務次官から、人口流出が続く中、富める地域はますます富んで、貧しい地域はますます貧しくなっていくという今の現状は、今後の日本の国家的な課題になる。その流れを食い止めなければならない。そういう状況にさらされている高知県から、ぜひどうすればいいかについての政策提言をしてほしいと言われた。国の政策のつくり方の流れが変わりつつある中、本県のような県こそ、真っ先に手を上げて政策提言を国にしていかなければならない。国の政策の流れを本当の意味で変えるためには、一番厳しい地方である、この高知県の県庁、われわれがしっかりと国に対して政策を、真に地方に通用する政策というものをつくり提言していく。これがまた日本全国民のためにもなると、そういうことではなかろうかと思っている。そういう点において求められることは、地方発の政策提言という視点を持った県政ではないかと思う。以上、今年計画づくりをするにあたって、自分自身が肝に銘じたことを申し上げたが、庁議メンバーにもその点を肝に銘じて取り組みを進めてもらいたい。
- 最後に、足固めの年と申し上げたが、足固めの年は何も動かないということでない。既に今までも前知事のもとで多くの政策が練られてきていると思う。今すぐにできることについては、当然のことながら今すぐに着手をし、実行をするということが大切である。この4年間において、県政の浮揚を図るための足固めの年ではあるが、ただその目的に沿った形で、今できることについては併せて同時に着手をしていく、これも大切である。速やかにできることを実証、実践していく、そういうスピード感とともに、もう1つは立ちどまりつつ、高知県の先々についてしっかりと考え、そういう思慮の深さを兼ね備えた、そのような1年にしたいと私自身念じているところである。皆さんが十二分に力を発揮されることを私自身深くお願いして、私の新年のあいさつとさせてもらおう。

3 その他

- 農業振興部長より、年末年始に開催された高知競馬の状況報告と職員の来場に対するお礼があった。